

袤五里五町、南は馬木村より北は鈴張村に至る、四隣東は賀茂、高田二郡、南は安藝郡、西は沼田郡、北は山縣郡なり、可部町を以郡本とす、○中略

按に當郡上古は、今の高田郡の内にありて、別に一郡たりしが、いつの頃よりか高宮を併せて高田一名となりしを、後高宮の名を復せらるゝに及て、安北郡の地は高宮の名を蒙らしめられたれば、今此郡の地は上古の安藝郡の内にして、中古の安北郡なり、高宮の舊地は今高田郡の西半分の地と見えたり、

〔三代實錄清和〕貞觀四年七月十日丁丑、安藝國高宮郡大領外正八位下三使部直弟繼、少領外從八位上三使部直勝雄等十八人、復本姓仲縣國造、

高田郡

〔藝藩通志安藝〕高田郡 疆域形勢 風氣沿革附

高田郡は國の東北邊にありて、藩府を距る七八里なり、其地高き故に高田とは名づけられたるにや、廣三里半、東は小原村より西は土師村に至る、袤七里、南は三田村より北は生田村に至る、四隣東南は賀茂、豐田二郡、西南は高宮郡、西は山縣郡、北は石見邑智郡、東北は備後三次郡なり、吉田町を以郡本とす、○中略

按に當郡の地、上古は東邊を高田、西邊を高宮とす、後合せて一郡となりければ、今の地は古に倍す、故に倭名抄高田郡所管の七郷、高宮郡の六郷、今並に當郡の内にあり、又按に安藝郡田所家古文書、及び豐田郡樂音寺神名帳などを見るに、吉田郡といへるあり、其郡内に禰村、志路村、石浦村などの名も見ゆれば、中古彼あたりを吉田郡と稱せし事もありしと見ゆ、されど外に古記の左證もなければいふかし、姑く附して後考を待のみ、

〔藝藩通志十八〕安藝國嚴島古文書〕廳宣 留守所

可早任散位中原朝臣業長寄文狀爲伊津岐島御領高田郡漆ヶ郷狀○中略